

**【震災翌日～現在】****●震災で天皇杯出場のチャンスが失われる**

翌月の4月から関東リーグに昇格することが決まっています、チームを立ち上げ直している最中でした。3月には大学と社会人チームが参加できる大会があり、私たちのチームは翌々日が決勝戦という日でした。勝てば社会人代表として天皇杯に行くことが決まる大切な試合です。震災が起きてしまったので当然延期になるとばかり思っていたら、なぜか中止になってしまいました。そして決勝戦はなく、決勝戦で試合する予定だった2チームが優勝ということになりました。

通常であれば、社会人の優勝チームと高校生の優勝チーム、そして大学の優勝チームが戦って天皇杯出場が決まります。ところがグラウンドが確保できないなどといった諸々の理由で、社会人チームは除外されてしまいました。海に近いグラウンドも多かったため、スケジュール組みがとても大変だったのだと思います。苦肉の策として、そう決定されてしまったのです。天皇杯を目指して頑張ってきたチームとしては、大きなチャンスの損失となりました。

**●やっと地元で練習ができるようになり、成績が大幅に向上**

関東リーグに昇格したタイミングに陸上競技場ができる予定だったのが、延期となり試合が浦安市ではできないので、毎回市原や千葉、房総などへ試合に出かけて行きました。ホームゲームでありながら、実際は遠いところで開催しなくてはならない。そういった状態が2年間続きました。ようやく2015年運動公園に陸上競技場ができ、やっと浦安でホームゲームができるようになりました。

震災以降1年間はずっと都内のグラウンドをお借りしての練習でしたが、翌年（2013年）には総合公園にグラウンドが完成したので、地元で練習することが可能になりました。以降、本来持っていた力、溜めていたバネのようなものがはじけたとも言いましょうか。2013年は地域リーグ始まって以来の快挙で、17勝1分けという結果でした。得失点差も90点ぐらいあったように思います。今年は練習場だけでなく、試合自体もホームで行われますから、昨年以上の結果が期待できると思います。

**●サッカーを通じて子供たちにも貢献、そして期待**

震災から1年半後、浦安サッカークラブの主催で被災地交流サッカー大会を開催しました。岩手、宮城、福島から3チームを招待し、1泊2日で大会を行いました。もちろん試合も行ったのですが、どんな震災体験をしたのかを発表し合う場を設けました。なかには車の中に閉じ込められたまま川に流されたという子供、学校に閉じ込められて理科室の実験台の下で3日間も水なしで過ごしたという子もいました。実際に同年代の子供たちの話を聞くことができ、浦安の子供たちにとってもとてもいい機会になったと思っています。

興味深かったのは、将来の夢を語り合う場面で、浦安の子供たちは「プロのサッカー選手

になりたい」、「ワールドカップに出場したい」などと言ってましたが、東北の子供たちは「何か人の役に立てる仕事に就きたい」「多くの人を助けたい」などと発表する子がほとんどなのです。被災地で多くの人たちに助けられた経験があつてのことだと思ふのですが、これはとても印象的でした。

浦安には 16 万人ほどの住民がいるのですが、そのうちおよそ 1800 人の小学生がサッカーをやっています。震災があつたことによって、サッカーができることに感謝するようになった子供たちも多いのではないのでしょうか。被害を受けた人の中には大きな損害を被つた人もいますが、サッカーを盛り上げることで市民の皆を笑顔にできたら、と思つて活動しています。